

岡病防第1号
令和3年4月7日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について
病害虫発生予報第1号を下記のとおり発表したの送付します。

令和3年度病害虫発生予報第1号

令和3年4月7日
岡 山 県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	作物名	病害虫名	発生時期	発生量
麦類	赤かび病	早	やや多	タマネギ	べと病	—	多
モモ	灰星病 カメムシ類	早 やや早	並 少	イチゴ	ハダニ類	—	やや多
イチゴ トマト ナス	灰色かび病	—	並				

1 普通作物

(麦 類)

(1) 赤かび病

予報内容

発生時期 早

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 岡山県農林水産総合センター農業研究所の麦作況試験の調査では、麦の生育は平年より早く推移している。

イ. 4月1日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

- ア. 本病の第一次伝染源である子とう殻の形成が盛んになるのは、日平均気温が 13℃以上で降雨の直後である。子とう胞子の飛散が盛んになるのは、日最高気温が 15℃以上でかつ、日最低気温 10℃以上、湿度 80%以上または降雨直後である。この条件からみると岡山市のアメダス気象観測値では、子とう殻形成は 2 月中旬および子とう胞子飛散好適日は 3 月上旬から見られた。
- イ. 赤かび病は出穂期以降の気温が高く、湿度が高いまたは降水量が多いと発病が助長される。
- ウ. 国内産麦類の検査規格では、赤かび病による被害粒が 10,000 粒中 5 粒以上混入すると「規格外」となる。
- エ. 令和 2 年度植物防疫情報第 14 号（令和 3 年 3 月 23 日発表）「麦類赤かび病の防除の徹底について」参照。

2 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病（花腐れ、芽枯れ、枝病斑）

予報内容

発生時期 **早**
発生量 並

予報の根拠

- ア. モモの開花時期は、平年より早い。
- イ. 4 月 1 日発表の 1 か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) カメムシ類

予報内容

発生時期 **やや早**
発生量 少

予報の根拠

- ア. 4 月 1 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高い見込みであり、発生をやや助長する条件である。
- イ. 4 月～7 月のチャバネアオカメムシ及びクサギカメムシ予察灯飛来数は、前年 2 月～5 月のスギ・ヒノキ花粉飛散数との間に高い正の相関がある。岡山県における昨年 2 月～5 月のスギ・ヒノキ花粉飛散数は、南部で少なかった。
- ウ. 花粉飛散数を利用した予測式によると、本年 4～7 月の予察灯（赤磐市）への飛来予測数はチャバネアオカメムシが 11.9 頭（平年 543.0 頭）、クサギカメムシが 11.2 頭（平年 103.6 頭）で平年より少ないと予測される。

3 野 菜

(1) イチゴ、トマト、ナスの灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月2日の巡回調査によると、ナス及びトマトでは発生を認めず、いずれも平年（ナス：4.0%、トマト：62.0%）より低かったが、イチゴでは25.0%で、平年（17.9%）よりやや高かった。

イ. 4月1日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

(2) タマネギベと病

予報内容

発生量 多

予報の根拠

ア. 4月2日の巡回調査によると、発生圃場率は53.3%で平年（29.3%）より高かった。

イ. 4月1日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 気温15℃前後で雨が多いと多発生しやすい。

イ. 令和2年度病害虫発生予察注意報第5号（令和3年3月24日発表）参照。

(3) イチゴのハダニ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月2日の巡回調査によると、発生圃場率は37.5%で平年（52.6%）並であった。

イ. 4月1日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、発生を助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、

<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

